

# 子育てジャーナル



発行人 四ツ金雅彦  
 公益社団法人 全埼玉私立幼稚園連合会・幼児教育センター  
 全埼玉私立幼稚園PTA連合会  
 〒330-0063 さいたま市浦和区高砂4-13-21 私学会館新館  
 TEL 048(863)7811 FAX 048(863)7761  
 http://www.youchien.ed.jp

No.89  
 2019(H31)年  
 3.1

## 「生きる力」を育む教育

### 平成を振り返って



(公社)全埼玉私立幼稚園連合会  
 名誉会長 平原 隆秀

と結びつくことのできる時代となりました。

毎年この時期になると卒園式に向けて練習する園児の歌声が園舎に響き、元気をもらうと同時に、どこか切ない気持ちになります。特に今年はやがて、感慨もひとしおです。昭和の半分にも満たない平成という時代でしたが、振り返れば世の中はずいぶん大きく変化したように思います。科学技術が進歩し、漫画の世界だった携帯電話どころか、今ではスマートフォン一つでインターネットで何でも検索し、音楽を聴き、道案内までできるようになりました。また、マスメディアを通すことなく誰でも情報を発信し、世代や地域を超えて様々な人々

と結びつくことのできる時代となりました。教育の世界も例外ではありません。平成が始まった頃には、学校も幼稚園も土曜日の午前にはまだ授業、保育をしていました。やがて、子どもたちを社会全体で育てることをねらいとして週休二日制が浸透していったのです。また、ゆとり教育と呼ばれ、あまり良く言われることのない教育改革も、本来は従前の知識量をみる学力から、自ら考え表現できる学力への転換を図るという、とても崇高なものでした。端的に言えば、歴史の年号を丸暗記する学力から、生活の中で生じた問題を解決する知恵を磨く学力へシフトした、といったところでしょうか。再来年度から始まる記述式の大学入試等も、元を辿ればこの理念に基づいたものなのです。そして、いわゆるゆとり世代は現在の十代後半

から三十代前半となり、社会の中心を担う世代となりつつあります。幼稚園の先生、保護者の皆様もこの世代に当てはまる方が多いと言えるのではないのでしょうか。

一時は「こんなにゆるい教育を受けた子どもたちが大人になったら、世の中はどうなってしまうのか」と危惧する声もありましたが、蓋を開ければ、固定観念にとらわれない発想で新しい風を吹き起こすことのできる、また、争いよりも協調を好む穏やかな人柄の方が多い印象があります。振り返ってみれば、変化しただ後はいろいろと批判を浴びつつも、社会は少しずつその変化を受け止め、より良い方向へと着実に進んできたと言えるのではないのでしょうか。

さて、平成も残すはあと一月余り。新しい年号の発表まで残りわずかとなりました。ゆとり世代の次に来る新しい世代はどのような時代を作っていくのか。きつと成熟した平和な時代を作ってくれませんか。未来の担い手となる子どもたちに大いに期待し、その門出を心より祝したいと思います。

シリウス 子育ての知恵 46  
 「やって見せ、言ってみせて」

谷島 正敏  
 「やって見せ、言ってみせて聞かせて、させて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ」  
 かつて日本海軍の連合艦隊司令長官であった山本五十六という人の言葉です。有名な言葉ですので、ご存じの方も多いかと思いますが。

この言葉、幼児教育の基本にも繋がるもので、生活習慣ははじめさまざまな指導場面で生かすことができるものだと思います。

例えば、ボタンの掛けはずしやお箸の持ち方などは三歳のころに身につけたもの。その都度に繰り返し教えていくことが大事ですが、最初は「やって見せ」の文字通りやって見せることが大事です。そして、言葉でわかりやすく「言ってみせて」、実際に「させてみて」、手を貸してでも出来れば「よくできたわね」とがんばったことを誉めて、「ほめてやらねば」「人は動かじ」(できません)ということになります。

どうぞ、どう育てるかは大事です。上手に育ててください。